

健康登山73:自然歩道40 (養老駅～萩原橋～関ヶ原駅)

コース	養老駅 1.8km/45 2.7km/86 1.1km/30	養老神社 2.0km/29 龍泉寺跡 1.5km/35 久々美雄彦神社 2.2km/37	柏尾35.2m 0.8km/15 上方白鳥神社 1.0km/22 広瀬橋 2.1km/31	神明神社 桜井白鳥神社 総合体育館
水平距離	15.2km		断面図 縦軸：高度m 横軸：距離km	
水平換算距離				
累計高低差	登り707m、下り678m			
標準歩行時間	5:30			
実績歩行時間	5:24			



山行報告

山行日 2012・03・01(木) 天候 晴れ 参加者 5名

行 動 京都駅7:32 養老駅9:49 養老神社10:31 柏尾 35.2m11:10 神明神社11:30 勢至谷昼食12:06~12:42 龍泉寺跡13:27 上方白鳥神社14:01 桜井白鳥神社14:29 久々美雄彦神社15:07 広瀬橋15:43 総合体育館16:13 京都駅18:42

記 録

今回は養老駅から東海自然歩道の養老神社～萩原橋間を経て総合体育館までを歩いた。

このコースには法相宗の山岳仏教七ヶ寺の廃寺跡があり多芸七坊と名付けられている。柏尾寺跡、龍泉寺跡などがあり、廃寺跡から発掘された千体地蔵が目玉を引く。

養老駅から養老神社まで登り菊水霊泉を見て自然歩道歩きをスタート、すぐに5差路になった分岐があり、ここで道を間違えて柏尾集落の標高35m地点まで下ってしまった。ここから真っ直ぐ神明神社に向かう道を登り返して自然歩道に復帰した。

神明神社で小休止をした。この辺りが柏尾廃寺跡で歩きはじめると間もなく千体地蔵があった。林間道を通り勢至南谷を渡ると3分程で日吉神社に着いた。さらに山裾道を北上すると勢至谷に出る、谷沿いに砂防工事道がつけられていて見晴らしのよい橋上で昼食をした。

昼食後、砂防工事道を少し登り右折するのだが、分岐を見落として谷道を100mほど登り引き返すというミスをした。分岐まで戻り100mほど登ったところが龍泉寺跡で、そこから上方集落への下り道も踏み跡が薄くて分かりにくかった。

次の桜井集落にも桜井白鳥神社が祭られていた。この神社には日本武尊にまつわる伝説が記されていて、日本武尊が通ったみゆき道が東海自然歩道に近いとのこと。

桜井集落と次の沢田集落の間に久々美雄彦神社があった。高所にあるので下から一礼をして通り過ぎた。沢田集落から自然歩道は再び林間に入るのだが、平坦な集落内の道を通って西沢田バス停に出た。さらに牧田川に架かる広瀬橋を渡り左岸の堤防道を萩原橋まで歩いた。堤防道から冠雪した伊吹山が青空の中にクッキリと浮かんでいた。

萩原橋の近くにある総合体育館で休憩後、タクシーで関ヶ原駅へ向った。関ヶ原駅着16:50。

自然歩道 (養老駅～総合体育館)



養老神社参拝
10:27



神明神社
11:26



千体地藏
11:38



勢至南谷を渡る
11:47



勢至谷にて
昼食時に撮影
12:45



龍泉寺跡
13:25



桜井白鳥神社
14:28



洄れ沢を渡る
14:43



広瀬橋にて
背景は伊吹山
15:39



牧田川の堤防
正面は伊吹山
16:00

名所・旧跡ミニガイド（自然歩道：養老駅～養老神社～萩原橋～総合体育館）

参考資料 ホームページ他より

養老山：（多度山）標高 859m の山で年間 1 万人の登山客がある。

今昔物語、宇治拾遺物語、と共に日本三大説話集で鎌倉時代に編纂された著聞説話集に記載されている「孝子物語」で有名な「養老の滝」が山麓にあります。

またヤマトタケルが、伊吹山の神と知らず戦い、病となり帰路を養老山山麓の道を伊勢に向かう途中、能褒野（^{のほの}亀山市の台地）で亡くなった。（別記）御幸道^{みゆきみち}とも呼ばれ、東海自然歩道が整備されています。全コース 15,7 km。

養老寺：真宗大谷派の寺院。当時は法相宗（山号：滝寿山）

本尊：十一面千手観音菩薩。

西美濃三十三霊場二十五番札所。不老不死の祈願寺として参拝者が多い。多芸七坊の一つ。

孝子、源丞内^{げんじょうない}ゆかりの寺院。不老長寿の御利益があるという。

源丞内（実在？後に美濃守）の創建ともいわれ、源丞内の墓がある。

境内の滝守不動道の不動明王はナマズに乗って来たといわれ、鯰を食して参拝をしたり、滝に浴すると罰があたるといわれる。

養老神社：境内に菊水泉がある。（名水 100 選）

創建時期不明、山や水が精霊で、平安時代は「養老明神」とある。

祭神：菊理媛神^{くくりひめのかみ}：イザナギ神とイザナミ神を黄泉の国で仲直りさせた神。

（白山の神）白山比咩神^{しろやまひめのかみ}と同一とされています。

菅原道真：永正元年(1503)合祀。「養老天神」

元正天皇/聖武天皇：明治初期斎場を移転して合祀。「養老神社」に改称。

*源丞内^{げんじょうない}は祀られていない。孝子神社は養老公園近くに平成に創建されています。

菊水霊泉：養老神社の境内にある湧水。

元正天皇(女帝)が禊ぎを行い、律令国家建設祈願のご神水は「くくりの水」であった。国を治める「くくり結ぶ水」としての解釈もある。

養老改元の詔では、「変若・薬の水」と記されている。

菊水とは、病に「効く水」と考えられています。

養老山地の水は、カルシウム、マグネシウム、カリウム、マトリウムが含まれたミネラルウォーター。石灰岩層を潜って湧き出る水は、炭酸水です。

*美濃の国では。万病を癒す水として行幸以前から知られていた。

（ラドンやゲルマニウムを含む）

養老の滝：滝の水が酒になったという説話伝説の滝。

前回の東海自然歩道「養老の滝」ミニガイド参照。

元正天皇行幸遺跡：霊亀 3 年 9 月(717)養老の滝(菊水泉)へ行幸された地。

この年の 11 月「霊亀」から「養老」と改元された。

第 44 代元正天皇(女帝)：母は 43 代元明天皇、祖父は 38 代天智天皇。

甥が 45 代聖武天皇。(弟は 42 代文武天皇在位 11 年 25 歳で崩御)

天平 18 年 10 月、東大寺の前身金鐘寺こんしゆじに行幸、蘆舎那仏に対し 157,000 の灯火を燃灯供養法要が行われた。大仏は完成してないが鋳型が完成していたものとされる。天平 20 年 4 月(748)69 歳で崩御。

多芸七坊：美濃の国伊勢街道養老山麓に建立された、法相宗の七カ寺。

北から、別所寺、竜泉寺、光堂寺、柏尾寺かしわおじ、養老寺(再建)、光明寺、藤内寺。
永禄 5 年(1562)信長の兵火で灰燼となる。

法相宗の大本山は薬師寺、興福寺。

正慶寺しょうけいじ：真宗大谷派。境内から濃尾平野が望まれる。

神明神社：創建年不詳。祭神：天照皇大神あまてらすすめらのおおかみ。

柏尾寺跡かしわおじ：神明神社の下の平地に、遺跡が一番はっきり残っていて、礎石 16 個、観音堂、多宝塔礎石 11 個がある。

昔若い坊さんが修行で大悲観音を背負って柏尾までやってきた。疲れたので、目の前の大きな石の上に置こうとしたが、観音様をそのまま地面に置くことは出来ず、いい具合に柏の葉があったので、それを石の上に敷いて観音様をその上に置いた。しばらくして持ち上げようとしたが重くて持てなくなり、無理に動かすよりお堂を建てようとしてコツコツやりだした。すると少しずつ人が集まり、観音様を拜んでは帰り、小さかったお堂も大きな伽藍の霊場となり栄えたという。柏尾村の地名の由来は、観音様のために、柏の木の葉を、山の尾に敷いたことから柏尾と呼ばれるようになった。

千躰地蔵：柏尾寺跡から北西 50m の位置。お堂跡に梵鐘が埋まっていて正月に金の鶏が鳴くという話を耳にした村人が、明治 30 年、此处を発掘したところ、千数百体にのぼる石仏が出土したので直径 15m の円錐形の台座に安置した。

頂上の観音立像には応永 9 年の記銘がある。

信長焼き討ちされた人たちの供養仏とされる。

日吉神社：多芸七坊の一つ光堂寺があったところ、神社裏に礎石が残っている。

上方白鳥神社：多芸郡十六社の一つ。ヤマトタケルゆかりの社。

祭神：日本武尊(日本書紀)/倭建命(古事記)

桜井白鳥神社：ヤマトタケルが休息、湧水を飲んだ所。「その味桜の如し」と喜ばれたと伝える「桜の井戸」があります。地名もここからきています。

ヤマトタケル：東北遠征からの帰路。尾張で伊吹の神を征伐することが残っていた。

タケルは、素手で戦うと草薙の剣を預けて山に登り始めた。

途中白い大猪が現れた。山の神の使の変身と思って無視した。実は山の神自身が変身していたのであった。山の神は大氷雨を降らせたため、タケルは大痛手を被ってしまった。やがて病にかかり伊吹山を降りた。

タケルが攻撃されたのは3合目付近でヤマトタケル遭難碑がある。

下山し玉倉部(関ヶ原町)で飲んだ水が高熱を下げたという。

伊吹山旧ゴンドラ乗り場の命水「ケカチの涌」、醒ヶ井の「居醒の清水」がこの伝説を残している。ヤマトタケルが傷を癒した所から、「居醒の清水」と呼ばれ、「醒井」の地名もこの話が元になったといはれる。

疲れ果ててしまったタケルは、養老町辺りで休息、足は膨れ上がり「私の足は歩くこともできず、たぎたぎしくなった(足がおぼつかないさま)」と言った。

後にこの地を当芸野と呼ぶようになった。(多芸、多度、の語源?)

大和に向かい歩きだしたが体力は衰え「わが足三重の匂(曲)りなして疲れた」と語った。後にこの地を三重と呼んだ。

終焉の地、能褒野に着き力尽きた。ここで陵を造り皆が悲しんでいると陵から一羽の白鳥が空に舞い上がり、大和の方に飛んでいった。

久々美雄彦神社：創建時期不明。仁明天皇から従五位下の神階を授けられた記述がある。

祭神：久久美雄彦神。どのような神かは不明。(諸説あり?)

昔この地の殿様が乗馬で沢田集落に来ると馬から落ちる。次の日もまた次の日も落ちるので、この地域の総氏神である久久美雄彦神社の神様に馬から落ちないようにお願いすると、神様は、今祀ってある所よりもっと高い場所に祀りなせば、馬から落ちないと、お告げがあり、高い所に移しなせさせた。このときから一度も馬から落ちなかったという。